

敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）

2024 年度（令和 6 年度）自己点検・評価

自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>「コンピューターリテラシー」は、PC に関わる一般常識の講座であるため、1 年次から履修可能としており、共通基礎科目の必修科目となっている。また、不合格となった場合でも再履修が可能である。「データサイエンス入門」に関しては、2 年次より受講可能な科目であり、「コンピューターリテラシー」の上位講座として実施する。本学における“敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム”は、令和 6 年度より行っているため、「データサイエンス入門」は令和 7 年度が初めての受講者となる。これら、学生の履修状況や修了状況は、当学のポータルサイトである“Universal Passport”にて確認できている。</p> <p>令和 6 年度の「コンピューターリテラシー」/「データサイエンス入門」の履修状況は次のとおりである。</p> <p>「コンピューターリテラシー」：履修者 126 名、単位認定者 116 名、合格率 92.1%</p> <p>「データサイエンス入門」（現在講義中）：履修者 16 名</p>
学修成果	<p>「コンピューターリテラシー」</p> <p>本プログラムの学修成果は、当学のポータルサイトである“Universal Passport”にて確認できるようになっている。成績評価のつけ方は、以下のように進めている。</p> <p>全体の講義回数の 70% 以上の出席（11 回以上）が単位取得の条件となり、授業内の取組状況 10 点となる。また、課題点は、ビジネスメール、ビジネス文書、表計算など Word や Excel を用いての課題提出が 3 回あり、それぞれ 10 点。グループワークとして、それぞれの課題に対する検討と PowerPoint での資料作成と発表をについて 60 点を付与する。これらの点数が最大点となるため、ここから減点しその合計が評価となる。</p> <p>「データサイエンス入門」</p> <p>「コンピューターリテラシー」同様に、学修成果は、当学のポータルサイトである“Universal Passport”にて確認できるようになっている。成績評価のつけ方は、以下のとおりである。</p> <p>全体の講義回数の 70% 以上の出席（11 回以上）が単位取得の条件となり、授業内の取組状況 10 点となる。各章ごとに理解度を確認するための小テストを 3 回実施し、それぞれ 30 点を最大点として付与する。本講義のカリキュラムは、“数理・データサイエンス・AI(リテラシーレ</p>

		<p>ベル)モデルカリキュラム ～データ思考の涵養～ (2024 年 2 月 22 日改訂)”に準じて作成されている。</p> <p>上記 2 科目の取得にて敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (リテラシーレベル) を認定する。</p>
	<p>学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度</p>	<p>講義終了後に受講者を対象に授業評価アンケートを実施し (令和 6 年度はコンピューターリテラシーのみ)、当学のポータルサイトである “Universal Passport” にて確認できている。</p> <p>授業評価アンケートによる理解度は、良好であり、小テストおよびグループワークなど座学だけではない内容にしていることが評価されている。</p> <p>「この授業で教わったことを理解し、身についたと思いますか？」の質問では、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は、クラスによるが 6 割～7 割となっており、どちらともいえないまで入れると 8 割～9 割となっている。</p> <p>また、各回の確認テストや課題によって理解度を深めることができたと考えている。</p> <p>令和 7 年度から始まる「データサイエンス入門」においても同様のアンケートを実施する予定である。</p>
	<p>学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>“学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度”については、令和 7 年度にて最初の修了者を輩出するため、この項目については令和 7 年度に記載する。</p> <p>しかしながら、現状で学内での学生との話から肌で感じる内容としては、人文学部の大学においても“数理・データサイエンス・AI”分野に関心が高い学生が多く存在することが分かった。</p>
	<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>前記したように、令和 7 年度にて最初の修了者を輩出するため、この項目については現在の予定という形で記載する。</p> <p>全学的な履修者数、履修率については、前期と後期に分けて集計している。またその結果については、敬和学園大学数理・データサイエンス・AI プログラム (リテラシーレベル) を統括するネットワーク委員会にて検証を行い、現状での問題点や改善策の検討を行っている。最大の目標は、本プログラムの修了者を一人でも多く輩出することにある。</p>
学外からの視点		
	<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>前記したように、令和 7 年度にて最初の修了者を輩出し、その卒業年度は令和 9 年度以降となるため、現段階では評価できていない。</p> <p>しかしながら、卒業生進路調査において、本プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握が可能である。また卒業生の就職先の企業に対して企業調査を実施し、本教育プログラムを修了した卒業生における採用状況や企業評価を把握することができる体制にある。</p>

<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>現状では、産業界から意見を収集する機会や仕組みはない。しかしながら、本プログラム修了者の意見を収集できるようなアンケートフォームを用意し、修了者に記載を促している。さらに、修了者の勤務先へヒアリングを行い、前記したアンケートフォームへ情報を蓄積していく。これらの情報を基に、敬和学園大学（地方の文系大学）としてふさわしいカリキュラムを独自に模索していく。</p> <p>また、本プログラムは、産業界での実務経験（電機メーカー、情報デザインなど）が豊富な教員が担当しており、これらの教員より現業に近く、学生にとって分かりやすい講義運用ができています。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>「コンピューターリテラシー」</p> <p>1年次における講義であるため、インターネットとコンピュータを大学在学中に活用するためのテクニックや、就職時に必要になる実用的な利用法を学ぶことを大目標としている。履修者スキルを見きわめながら、ビジネスメール、ビジネス文書、プレゼンテーションなど、1人1台PCを用いて、電子ファイルによる小テストを通じてレベルを上げている。また、グループワークを取りながら課題発表に向けた作業に取り組んでいる。さらに、著作権、セキュリティ、AIによる社会変化やビッグデータの活用事例（数理・データサイエンス・AIの学習における“リテラシーレベル”の項目に該当）について解説している。</p> <p>「データサイエンス入門」</p> <p>2年次より受講可能となる本講義は、1年次開講の「コンピューターリテラシー」の上位科目となる。“数理・データサイエンス・AI”を活用することを通じ、実データや実課題を用いた演習など、社会での実例を題材に、現実の課題と適切な活用法を学ぶことをカリキュラムに取り入れている。本講義は、“数理・データサイエンス・AI”のリテラシーレベルに該当し、「分かりやすさ」や「社会での活用」、「幅広い視野」を重視した教育を実施している。具体的には、導入：社会におけるデータ・AI利活用、基礎：データリテラシー、心得：データ・AI利活用における留意事項の範囲を網羅し、講義やPCでの演習を行っている。</p>

<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成 AI 等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本プログラムの内容・水準を維持・向上するために、敬和学園大学では、AI 分野となる応用情報工学を専攻した教員を配置している。さらに、会社員としての実務経験もあることから、学問的知見の他に実社会での運用例を数多く講義することができている。理論と現業の両サイドからの講義を行うことにより、学生にとって肌身の近い内容（マーケティング・物流・医療・農業など）での講義に心がけている。さらには、修了者からの評価アンケートを活用して、修正を加えることで「分かりやすい」を追求している。</p> <p>加えて、生成 AI など技術発展の早い分野については、日経コンピュータや人工知能学会などの雑誌からも、学生へ情報を提供している。</p>
---	---